



国際平和講演会 過去を知り みんなで足下を見つめ 未来に繋げよう



「勉強をして、部活をして、家に帰るとご飯がある生活が当たり前でない時代があった。それができなかったのが戦争。」

衝撃的な言葉から、国際平和講演会がスタートしました。

1961年から10年間、四中に勤務されていた栗栖恵子先生がご来校され、戦争体験や終戦後の生活、教員になられてからのこと、四中での実践、そして、「今」を生きる子ども達への強いメッセージを送っていただきました。

戦時中に、ちょうど中学生だった栗栖先生の生活ぶりは、今の中学生のそれとは全く違い、疎開によって親と離ればなれになったことや、工場で働いていたこと、生きるために盗みをしたり泥水を飲んだりする同世代がたくさんいたことを話してくれました。

でも、栗栖先生が伝えたかったことは、戦争の悲惨さではなく、今でも戦争をしている国があることをどう思うか、世界で起きていることや世の中のことをもっと語れる中学生になるべきだと…「他の国で起きていること」と他人事とするのではなく、「人の身になって考える必要がある」「自分中心ではダメ!誰の意見も尊重して生きていくことが大事!」「十年一昔が、今は一年一昔の時代。そんな時代をどう生きていくかを学校の勉強以外に考えていかなきゃいけない時期に来ている!」と力強く語ってくれました。

栗栖先生のお父様は、戦後、「教育は大事!」と栗栖先生を大学まで進学させてくれたそうです。そして、「平和を考える子どもを育成したい」という強い意思のもと、教員になりました。土浦四中に勤務されていた時に、日本で初めて国連ユネスコと学校の連携を図り、JRC委員会を立ち上げた方でもあります。思いだけでなく、その思いを行動と形で残した偉大な先生からのメッセージは、子ども達の心にしっかりと届きました。「平和を築いていくためには、まずは隣にいる友達を大切にしてください。近くの人を大事にできない人は、国や世界の規模での平和は築いていけない。自分と違う意見をもっている人の考え方も大事にできる人になってくださいね。」と、すぐにできる平和への一歩を教えてくださいました。このメッセージを受け取った四中生が、これからどのように自分たちの手で平和を築いていくのか、楽しみでもあり、子ども達と共に考え、行動する大切さを感じています。

体育祭結団式



猛虎団、青龍団、煌鷹団3団の団長が出揃い、体育祭結団式が開催されました。スローガンは「壺々陸(いいいろ)に輝けえんじと三原色~青黄赤つの灯この胸に~」です。横断幕(右下写真)は、美術部で制作してくれました。

体育祭のねらいは、運動能力を競うことではなく、自発的・自主的参加、協力等の集団行動において、最後まで自分の責任を果たそうとする団結力の闘いです!団長だけでなく、団役員、団員がどれだけ自分の役割を理解して、団のために主体的に動けるかということが大事になる行事です。なので、9年生はもちろんのこと、8年生には8年生なりの、7年生には7年生なりの役割があることを考え、みんなの力を集結させて体育祭を成功させてもらいたいと思います。結団式での盛り上がり闘志を、解団式まで持続させていきましょう!



健康でハッピーに生きていくために知っておきたい性のこと

群馬大学より石井里佳先生を講師にお招きし、全学年を対象に性教育講座を実施しました。中学生の時期は、子ども達が心身共に大きく成長し、性への関心が高まる時期でもあります。これからの人生において、性に対する正しい知識をもち、自分や相手を大切にする恋愛をしていくことは非常に重要です。しかしながら、昨今では性交年齢が低くなる傾向が見られ、未熟な状態での性的な関係がもたらすリスクも増していることから目を背けられません。

今回の性教育講座では、次の点に焦点を当てました。

- 性に関する正しい知識の提供
- 自分自身の身体を大切にすることの重要性
- 相手への思いやりと尊重、性的同意の大切さ
- 断り方のテクニック(対話しながらみんなで考える)
- 健全な恋愛関係の築き方

これらのテーマを通じて、子ども達が安心してハッピーな人生を送るための基盤を築けたのではないかと思います。講師の先生も大変明るく、さばけた感じで、でも大事なキーワードをしっかりと使いながらお話してくださいました。



保護者の皆様におかれましても、思春期にある子ども達と真剣に性について向き合っていただきたいと思います。家庭内での会話は、子ども達が健全な価値観をもち、適切な判断を下すための重要な土台となります。今季、『あの子の子ども』という高校生の妊娠をリアルに描いているドラマが放映されています。当事者になった時、どれだけ不安な思いを抱えるのか、どんな問題が生じてくるのかということ、ドラマと一緒に観ながら話すのも一つかもしれません。性に関する話題は時に難しいと感じられるかもしれませんが、オープンで安心できる環境を整え、子ども達が自由に疑問や悩みを話せるようにサポートしていただけると幸いです。



夏休み前集会

今年、校長が掲げた学校経営方針の一つに、「生徒が主役の学校づくり『任せて ほめて 鍛えて 伸ばす』』というものがあります。生徒に任せる場を多く作り、生徒自身が成長を実感できるような教育活動に努めています。

その実現の場として、夏休み前集会は全て生徒の自主的な活動で集会を開催してもらいました。第一部は、各委員会の委員長が、4月からの活動を振り返りながら、学校全体に呼びかけたいこと、夏休み中に取り組んでもらいたいことなどを伝えてくれました。委員会によって視点が違うので、それぞれの視点から見た「よりよくする方法」が全て実現したら、四中はとても磨かれた学校になると思います！

第二部では、生徒会と学年代表がコラボレーションして、「四中しゃべり場」を実施しました。テーマは、「令和版四中プライドの見直し」です。自分たちが目指す学校とはどんなものなのか、そのために必要な四中プライドとな何なのか、全校生徒に問いかけ、夏休み中に一人一人が考えてくるよう、宿題を与えてくれました。夏休み明けに、一人一人の考えを尊重し合いながら学級での話し合い、学校全体での話し合い、生徒会での集約と話し合いを重ねながら「令和版四中プライド」を完成させていきます。

生徒達が、自分の学校をしっかりと見つめる視点、自分たちの学校を〇〇にしたい！とよりよりのものに変えていこうとする気持ちが伝わる素敵な時間となりました。代表者だけが頑張る学校ではなく、この姿を受けて、学校全体で考える学校にしていきたいと思います。

